親が子供の代わりにやれることは、何ひとつない

私はスポーツの指導を長年行ってきて、いろいろな親の姿を聞くことが出来た。その中でも特に気になるのは、「子供のために」といいながらかえって成長を妨げるようなことをしてしまう親である。
たとえば、自分の子供がレギュラーに選ばれないと「なんで、うちの子供を試合に出さないんだ」と怒ってくるケースなどもそうだ。

そんな親に対して私は、「もっと自分の子供のことを知りなさい」と言いたい。厳しい練習を課すと気を抜いてしまったり、体がきつくなると勝手に練習をさぼったり、みんなが歯を食いしばって頑張っているときに、自分だけそこから逃れているようなことをしていたら、レギュラー争いに勝ち残ることなどできない。

そんな子供の姿を知りもせず、レギュラーになれないからといって、こちらに批判の矛先を向けていたのでは、子供を甘やかすばかりだ。ハードな練習でつらい思いをさせるのはかわいそうだからと思うのは勝手だが、親が苦情を言ったところで、子供の為にはなんの役にも立たない。

だからこそ親は、頑張りが足りなかったからレギュラーになれなかったのだという事実を、きちんと子供に気づかせてやるべきだ。そして、「練習は誰にも代わってもらえない。自分が頑張らなければならないんだ」ということを、教える必要がある。

長い人生を生き抜かなければならない子供のためを思ったら、そこをおろそかにしてはいけない。いくら親に財産があろうが、地位や名誉があろうが、子供たちは自分の足で歩んでいかなければならない。親が代わりに子供の人生を歩むことなどできないのだ。
ならば、苦しいことがあろうが、つらいことがあろうが、自分の足でしっかりと前進していけるような強さを身につけさせることが親の務めではないだろうか。
もちろん、危ないときに手をさしのべてサポートしてやることは必要だ。もう一歩がどうしても踏み出せないときに、「さあ、行きなさい！」と背中を押してやることも大切である。

しかし、親が子供の代わりにやってやれることはなに一つない。「子供のためなら、なんでもしてやれる」という考えは、親の思いあがりか、傲慢さでしかない。
また、そのことに気づいていない親が非常に多い。また、そういう親を容認している世の中に問題があるのではないかと思っている。